

『腫瘍マーカー』って、なんですか？

腫瘍には良性と悪性があり、悪性腫瘍は「がん」とよばれています。体内に腫瘍ができると、健康なときにはほとんど見られない特殊な物質が腫瘍により大量につくられ、血液中出现します。ちょっとこわいネーミングですがこれらを『腫瘍マーカー』といい、物質の量や種類によって腫瘍の存在を知る手がかりになります。

AFPという腫瘍マーカーが基準値以上の場合は、肝細胞がんがあることが推測されます。どうして推測か？とといいますと、陽性・異常値だからといって必ず「がん」があるわけではなく、肝炎や肝硬変でも上昇するからです。反対に陰性だからといって完全に「がん」が否定できるわけではなく、早期がんでは正常のこともあります。

腫瘍マーカー検査は、数多くある検査の1つです。腫瘍マーカーの異常値に対して医師は、身体所見、血液検査、他の腫瘍マーカー、CT、MRI、超音波などの画像を用いた検査所見などを総合的に判断します。くまなく検査した結果「がん」が確定される場合もありますし、どこにも「がん」はありませんよ、という場合もあるのです。したがって、腫瘍マーカー単独の検査値のみでは「がん」の確定診断ができないことから、数値に一喜一憂せず医師と相談することが大切となります。



<http://www.fotosearch.jp>

追記：あなたの顔色や体重の変化などが、血液検査よりも感度の良い『腫瘍マーカー』なっていることもあります。体調管理の第一歩は、ここからですね。